

歩道のない通学道路、地吹雪による車の転落箇所などを確認 新井柿崎線整備促進議員連盟が現地視察し、県振興局に要望書提出

上越市の南北を縦貫する主要地方道新井柿崎線は市内で最も重要な県道です。かつては国道への昇格を視野に入れた運動もありました。ところが旧規格のところが多く残っていて、路肩が狭いうえ、歩道もないところもあります。大型ダンプなど大型車の利用が多いのも特徴です。そして冬になれば、猛吹雪にさらされます。県道新井柿崎線整備促進議員連盟（宮崎政国会長）は24日、現地調査を行い、新潟県上越地域振興局に要望書を提出しました。

現場視察は板倉区内の歩道設置要望箇所から始まって、柿崎区内の消雪パイプ設置要望箇所まで21箇所。マイクロバスで移動しながら、8箇所から降りて現地を見ました。そ

のうち、ほとんどの場所で地元町内会の人たちが日頃、目になっている交通事故、地吹雪による車の転落など危険な実態をリアルに訴えました。大潟区高橋新田、吉川区梶地内などでの現場視察では、関係住民と県地域振興局の道路維持課長とのやりとりもあり、充実した視察となりました。

野尻の交差点付近での視察（写真上）では、歩道設置の要望が出されました。県の担当者と関係住民、議員が話し合っている間にも大型車がひっきりなしに通ります。ここは小学生の通学路でありながら、歩道のない場所です。旧規格なので路肩も狭く、歩くのが怖い。冬になれば、除雪により雪の壁もできるといいます。現地を見て、子どもたちがいっつも車の犠牲になってもおかしくないと感じました。



私の地元、吉川区梶地内での現場視察（写真下）では、6つの町内会から9人もの人たちが実情を訴えるために参加してくださいました。総合事務所武藤和美次長の説明に続いて訴えたのは、梶町内会長の山岸一男さんです。山岸さんは、「地吹雪によって車が雪に突っ込んだ



謙信SAKE祭賑わう

上越、妙高の酒やワイン、どぶろくなどが出そろい、試飲カップを手にまわる人が目立ちました。酒のほか、地場産の伝統野菜やそば等も販売され、賑わいました。

り、田んぼへ転落する場所がほぼ決まっています。防雪柵は昨年仮設型のものを設置しても良かったが、もう少し高く、固定的な柵にしてほしい」と訴えました。山岸さんは、要望を伝えるために、この日の朝、梶十文字付近に立って調べた交通量についても報告しました。午前7時から7時半までは232台、7時半から8時までは469台、合計701台が走っていたというのです。これにはそばにいたみんながびっくりしました。道路維持課長の話では、今年度、長峰地内で防雪柵の設計をするための気象観測が行われるとのことでした。

現場視察が終了してから、議員連盟の宮崎会長が新潟県上越地域振興局の新保弘地域整備部長等に対して要望書を提出しました。宮崎会長は、「きょうの視察では地域の熱がだんだん高まってきて、時間がかかった。毎年、取り組んでいる視察だが、きょうは新たな発見もあったのではないかと。地域のみなさんの切なる願いをくみあげて、ひとつでもふたつでも実現してほしい」と訴えました。新保部長は、「平成8年度をピークに予算は3分の1くらいまで落ち込んでいます。現地視察では、歩道（の未整備箇所）が強く印象に残った。みなさんの要望で100点は採れないが、少しでも改善できるように努力していきたい」とのべていました。

このところ、高齢の人の話に引き込まれることが多くなりました。先日、あるお家を訪ねると、姉妹三人と隣の家のお母さんの四人が移動販売車を待っていて、みんなでおしゃべりを楽しんでいる最中でした。

この日はさわやかな秋晴れ。柿の色もおいしそうな色になっていました。この四人の女性に、「今年は柿が大豊作だね。柿がいっぱいになりすぎて枝が折れちゃった木もあるでね」と声をかけたら、柿の話から始まり、昔からの食べ物についての話が次々と出ました。

最近、自分の家に柿の木があっても無関心の人が多くなりました。昔のように子どもたちが柿の木に登って柿を食べているといった光景はほとんど見られなくなっています。私も太ったこともあって、木に登ることはなく、たいがい、竹竿にカギをつけて柿をもらっています。

四人の中のひとりのお母さんが、「だでも、柿もぎそつても、もちやつけなもんだこて。なんていったって、カギが見えねえがど」と言うと、他の三人も含めて大笑いしました。カギは竹竿の先に付いていますが、そのカギが遠くて見えないというのです。私はいまのところ大丈夫です。でも、そのうち体力だけでなく視力も急激に落ちて同じようになるのかも知れません。

さて、そのお母さんもおもしろいことを言いだしはじめました。「昔の人たちは秋菜食って太れと言った」というのです。秋菜というのは大根菜のことです。大根の種をまき、芽が出て一〇センチほどになった時、すぐります。それを食べるといわれたということでした。

いまは飽食の時代、「やせろ」と言う人はいても、「太れ」という人はまずいません。このお母さんが若かりし頃は、食糧難の時代でしたから、柿であろうが大根であろうが、食べられるものはなんでも食べたのだと思います。いまでは信じられないでしょうが、かつては大根のずぼまで食べたものです。

大根菜は大事な秋野菜のひとつです。ゆでても、炒めてもおいしく食べることができず。四人のお母さんたちのおしゃべりは、「大根菜じよつから」のことで盛り上がりました。

「大根菜ゆでてさ、酒粕入って、シーチキン入ると出来上がり。何度でも暖めかえして食べたもんだ」

「シーチキンのかわりにサバの缶詰でもうんまいよ」

「大根菜がいつあるときにや、干して、干し菜もしよつからにしたこて」

わが家ではこの時期、大根菜じよつからをご飯のおかずとしてよく食べた記憶があります。でも、「大根菜じよつから」と呼ぶことを今回、初めて知りました。中に入れた缶詰も昔はシーチキンではありませんでした。

四人の女性の話を聞いたら、「大根菜じよつから」を無性に食べたくなり、母に頼んでわが家風のものを作ってもらいました。大根の葉が細かく切ってあって、歯ごたえがあります。缶詰はサバでした。うっかり醤油を入れたとかで、味はちよつとしよつぱい。でも、ご飯と一緒に食べた時、「これはうまい」と思いました。ご飯とじよつからよく合うのです。そして、ご飯を食べた後、無意識のうちに茶わんに「大根菜じよつから」を少し入れてお湯を注ぎました。これまた、この上なくうまかった。

吉川小学校の音楽発表会は23日でした。「さあ、はじまるよ、みんなおいで」と歌で開会の言葉をのべたのは1年生たち。歌と踊りで楽しませてくれました。「メリーさんのひつじ」で2匹のひつじの張りぼてが登場すると会場は沸きました。体をいっぱい動かして、元気いっぱいの1年生でした。

朗読と歌で「かさじぞう」をやったのは3年生、おじいさん役の児童がおじぞうさんに傘をかけてやる場所はなかなかの演技でした。クラスみんなで物語の感じを出そうとしていたのはよかったと思います。

学年ごとに持ち味生かし、楽しく音楽発表

2年生は、「かくれんぼ」「あえてよかった」の合唱をしました。「もういいかい、まあだだよ」「あきこちゃん、見つけた。ごろくん見つけた」。「かくれんぼ」は何度聴いても遊びながら歌えるいい歌です。

4年生は初めて二部合唱に挑戦しました。「次は4年生の発表です」というアナウンスが流れるといっせいに「はい」、とても元気のよい学年です。体を大きく振って、歌ったのは「レッツゴーいいことあるさ」。ラララ……、飛び出そう。リズム感があって、迫力もありました。

5年生、6年生の歌や合奏は貫禄充分でした。5年生

が歌った歌の歌詞、「喜びも悲しみも分ちあえたらいいのに 世界中の友だちがひとつになって この願いとどけたい」は災害の多かった年にふさわしい歌詞だと受けとめました。6年生は担任の先生に、「小学校最後の音楽祭だよ。がんばって」と朝、気合を入れられたとか。さすが6年生と言われるだけの力強さとやさしさのある合唱でした。これは私のホームページを開くと、動画でごらんいただけます。

吉川小学校の音楽発表会は平成13年度からはじまり、今回で11回目。八島校長は、挨拶の中で、「吉川の子どもたちは素晴らしい吉川の自然と人情の中

でくすくと育っている。歌と演奏は一人ひとりの協力なくしてできません。明るく元気な歌声をお聴きください」とのべておられました。音楽発表会は約2時間、感動の連続でした。



1年生の「メリーさんのひつじ」の一場面